

第 1 回千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会 議事要旨

1. 開催日時：平成26年3月10日（月）14：30～16：10
2. 場 所：千曲川河川事務所 2階 大会議室
3. 出席者：平林委員、島野委員、豊田委員、北野委員、傳田委員、福島委員、中村委員、宮原委員（村山代理）、村田委員、藤田委員（武田代理）、小池委員（欠席）、青木委員（欠席）、清水委員、竹内委員、富岡委員、依田委員、宮武委員
4. 議事概要（凡例：「◇」事務局からの連絡、「＊」質疑、「→」回答、「☆」意見
 - 1) 千曲川中流域砂礫河原保全再生検討会の進め方について
◇本検討会は、委員の方々から多くの意見を聴くため、自然再生事業に対する意見及び各機関の情報共有を図る場として会議を進める。
◇各委員からの意見については、事業実施の参考とする。
◇設立趣旨（案）及び規約（案）について了承された。
 - 2) 座長選出
座長に平林委員が選出された。
 - 3) 座長代理選出
座長代理に豊田委員が指名された。
 - 4) 千曲川における河川管理（治水・環境）の課題と要因の説明
（A委員）
＊川幅水深比（B／H）の値は、千曲川中流域のどの地点でどのような値なのか。全体として把握されているのか。
→値は把握している。昔と今を比べると、千曲川中流域では川幅水深比が小さくなっている傾向にある。
＊平成26年度の事業対象箇所は、掘削並びに埋め戻しを行うと、川幅水深比が140以上になると考えて良いか。
→事業対象箇所は昭和39年の川幅水深比277で、現在は89にまで落ちている。この89を本来であれば277に戻そうという考えもあるが、川の大改変につながるため、140程度に上げる考えである。なお、実施にあたっては専門の先生方に意見をお聞きしながら進めていきたい。
（B委員）
☆来年度の実施予定箇所を考えた中で、対象地域全体の中での位置付けをもう少しわかるようにして頂きたい。例えば樹木の面積は全体で過去からどのように変遷をしてきているのか。河原もキロポストごとに過去はどのくらいあったものがどう減ってきているのか。河原や樹林の全体の状況を見た上で、今後は千曲川としてはこういう自然を戻していきたいという全体像がわかるとよい。その中で、自然再生事業は過去にも実施しているので、こことここをやってきて、今度はここをやるといのがわかるとよい。
（C委員）
＊鼠地区に関して、平成25年9月の台風による洪水の起きたときにどうなったのか。

かなり冠水して、一帯が水で覆われたという状況が起きたのか。

→鼠地区は右岸側に強い流れがあるため砂礫が見られますが、左岸側は比較的静かな流れで、浸水したが大きな変化は見られなかった。ただ、攪乱しないところでも外来植生は抑制されていることは確認している。

(D委員)

☆河川生態学術研究会千曲川研究グループで、洪水が起きたときに、その後どのように植生が変わったかという報告書を作成中である。報告書ができたからお知らせする。

(E委員)

☆川底を埋めなければいけない理由を説明する上で、例えば護岸はどこまで基礎高があるとか、河岸が浸食されてもよい幅がどのくらいあるとか、そういった情報もあわせて示していただけるとよい。

☆千曲川中流域の河川環境の変化ということで写真があるが、いつ撮影された写真なのか、わかるようにして頂きたい。

5) 平成26年度自然再生事業実施箇所についての説明

(F委員)

☆事業については賛成である。

(G委員)

*平成16年から千曲川中流域で自然再生事業を実施しているが、その評価はどうなっているのか。確かにアレチウリやハリエンジュは、このような工事を行うと無くなってくることは事実だが、砂利が下流へ流されるため魚が居なくなってしまう。どのように評価しているのか伺いたい。

→平成16年から平成24年までの事業では、川の中は掘削していない。これまでの事業でわかっていることは、洪水で水が浸かるような場所はハリエンジュやアレチウリは抑制できると考えている。ただ、河岸を掘削するだけでは根本的な解決にならないと考えており、今後は川の中も少し変えていきたいということで、漁協の方のご意見をお伺いしたい。整備については、いろいろな方のご意見を聞きながら進めていきたい。

☆魚に影響がでない方法で工事を実施して頂きたい。

(H委員)

☆大事な蜜源樹としてハリエンジュがある。できるだけこのハリエンジュは残して頂きたい。ただし、千曲川河川事務所では治水の観点からハリエンジュを伐採したいということで、私たちとはちょっと立場が相反するところがありますが、10年くらい前から情報交換や意見交換、また陳情を含めて話し合いをさせて頂いてきた経緯がある。今後とも、できるだけ支障のないところのハリエンジュは残していただけるような視点に立った計画をつくって頂きたい。

☆平成26年度に計画している箇所の付近で養蜂、蜜蜂をやっている者がいないわけではないが、ハリエンジュがここだけしかないということではないので、実施していただいてもよい。この前後にわたって全部切るということになると、これは大変困る人も出てくるような感じもあるが、この部分については私たちとしては了解できる。

6) 今後の予定についての説明

◇事務局より技術部会、モニタリング部会の設置を提案し、了承された。

◇モニタリング部会は、平林委員、島野委員、北野委員、竹内委員、富岡委員に座長が要請し、了承された。

◇技術部会は、福島委員、中村委員、傳田委員、豊田委員に座長が要請し、了承された。

◇平成26年度及び平成27年度の事業実施箇所について、平成26年度中に技術部

- 会を開催し、意見を聴くものとする。
- ◇技術部会と平行してモニタリング部会を開催し、事前のモニタリング調査についての意見を聴くものとする。
 - ◇各部会より聴いた意見を踏まえ、平成26年度実施箇所について、9月頃に検討会を開催し報告する。
 - ◇河道掘削は、1月～3月を予定し、工事完了後は現地視察を予定する。

－以上－